



長門の話題 Topics

童謡詩人金子みすゞと書家金澤翔子のコラボレーション

間近で見る迫力ある書に魅了

7月30日(日)、ルネッサなとで「金子みすゞ金澤翔子展〈ひびきあう詩と書〉」の記念イベントが開催されました。

この日は書家の金澤翔子さん、母の泰子さん、金子みすゞ記念館の矢崎館長が来館し、記念式典やギャラリートーク、席上揮毫などさまざまな

催しが行われました。

軽運動室で行われた席上揮毫には、間近で金澤翔子さんの書が見られるとあつて熱心なファンが駆けつけました。金澤翔子さんは140cm四方の紙2枚に「感謝」の文字を揮毫。大きな筆を使って書く迫力ある書に訪れた観客は熱心に見入っていました。



▲約100人が見守る中で揮毫する金澤翔子さん



▲金澤翔子さんが揮毫した「感謝」の文字

女性活躍推進シンポジウム〜女性が輝くと社会も輝く〜

新しい働き方をみつけよう

8月7日(月)、長門市中央公民館で「女性活躍推進シンポジウム」が開催され、約100人が聴講に訪れました。長門市は全国や県と比較して女性の就業率が高いという特徴があり、女性起業家の掘り起こしや新たな女性ネットワークの構築を図る目的で開催されたものです。

シンポジウムには第一線で活躍されている高橋ゆき氏、島田由香氏、森本千賀子氏の3人がゲストとして呼ばれ、フリートークではワクワクし



▲子育てと仕事の両立、楽しみ方に話が及ぶ

た気持ちを持つことの大切さや、自分なりのコンディショニングの整え方、仕事への取り組み方などについてトークが交わされました。



▲長門市から2人のパネラーが登場

アウトドア活動促進による地域活性化などを目指して

株式会社モンベルと協定締結

7月31日(月)、アウトドア総合メーカーの株式会社モンベルと長門市が、アウトドア活動の促進による地域の活性化、市民の健康と生活の質の向上、そして若い世代に選ばれるまちとしての意識醸成に寄与することを目的とした包括連携協定を締結しました。

この日、大西市長は大阪市の株式会社モンベル本社を訪問し、辰野勇会長とともに調印式に出席。7項目にわたる連携協定についての協定書に署名をし、協定の締結を行いました。今後、アウトドア活動による活性化に向けた取組が進められていく予定です。



▲調印式に望んだ辰野会長(左)と大西市長

海外でコミュニケーション能力と国際感覚を磨く

中学生をベトナムに派遣

市内の中学生を海外へ派遣する事業「あすへの翼プロジェクト」の派遣者が8月3日(木)、市役所を訪れ、市長による激励を受けました。

ビンズン新都市に7泊9日間の日程で派遣されました。現地では英語研修として東部国際大学で研修を受けたり、現地の中学生やサイゴン山口県会と交流を図ったり、市内の企業が現地に建てた工場を見学するなど、異文化との交流を図りました。



▲「たくさんコミュニケーションをとりたい」と意気込む生徒

新観光列車「○○のはなし」運行開始

観光の起爆剤として期待

8月5日(土)から、新下関駅(東萩駅間)を通る新観光列車「○○のはなし」の運行が始まりました。

運行初日となったこの日はまず、新下関駅を出発した列車が12時18分に長門市駅に到着し、深川幼稚園の園児や保護者が出迎えました。東萩駅で折り返した後、14時56分に到着した仙崎駅では、みすゞ保育園の園児が手旗を振って



▲一日子ども駅長を務めた斎木さん(右)と岡本さん



▲長門市駅でのお出迎えの様子

列車を出迎え、列車のドアが開くと、みすゞ少女合唱団が歌を披露しました。また、「一日子ども駅長」に任命された斎木友彦さんと岡本桃花さんが、乗客に絵葉書をプレゼントしました。

約30分間の停車を終えると、大西市長とJR西日本長門鉄道部の保見孝好部長、一日子ども駅長の4人が手を上げ、出発の合図を行いました。

地域製品の消費拡大に期待

7月26日(水)、長門市役所で、長門市と株式会社丸久による「地域活性化包括連携協定」の締結式が行われました。

山口県内を中心に、約90店舗のスーパーマーケットを運営する同社との協定では、幅広い分野での協働の取組によって、より市民が暮らしやすいまちづくりが進むことが期待されています。

この日の締結式では、大西市長と同社の田中康男代表取締役社長が、地産・地消の推進や情報発信、観光・文化・スポーツ振興など9項目の連携事項が記された協定書に署名しました。



▲調印式に望んだ大西市長(左)と田中代表取締役(右)

新庁舎建設にかかる木材の端材を活用

木工教室で木に親しみ

大規模木造建築物として建築が進んでいる市役所新庁舎ですが、使用する木材の製材過程で発生する端材の有効活用を図ろうと、7月29日(土)、端材を利用した木工教室が長門市物産観光センターで開かれ、親子連れ20人が参加しました。

これは毎年、夏休みお助け講座として中央公民館と一般社団法人山口県建築士会長門支部青年部が開いているもので、参加者は建築士の指導のもと、のこぎりや金づち、定規などを使って木材を加工し、木製の椅子を組み立てていました。



▲建築士会青年部から椅子の作り方を学ぶ

盆踊りでつながる夏の夜

8月11日(金)、長門湯本温泉で、52回目を迎える納涼盆踊り大会が開催されました。

市内の企業や団体から参加した20チームは、温泉街を周りながら3曲を踊り、各所に配置された審査員にアピール。音信川では精霊流しや、仕掛け花火が行われました。バンドグループ「F・S TREET」がライブで会場を盛り上げた後、ステージには

安倍晋三首相と昭恵夫人がサプライズで登場。首相は「知恵を出し合って取組を進める湯本のように、みんなが生まれ育った地域を良くしていく」とすれば、日本はもっと元気が出てくる」とあいさつし、歓声に応えていました。

年代を問わず、多くの人が盆踊りを楽しんだ今大会は、「YRKばあーじい湯本区老人会」が優勝を果たしました。



▲優勝した「YRK ばあーじい湯本区老人会」



▲安倍首相と昭恵夫人もサプライズで登場した



未来を担う世代の背中を押していく

のむら ゆうき
野村 勇希 さん

(長門市Nセンター
事業マネージャー
／油谷向津具下)

市が進める人と仕事をつなぐ拠点「しごとセンター(仮称)」の開設に向け、市とともにキャリア教育を進める株式会社ドワンゴは、6月に「長門市Nセンター」を設立。事業マネージャーとして野村さんが着任しました。

福岡県で大学生と一緒に中高生と語り合い、働くことや将来の生き方を考える「カタリバ」の活動に携わっていた野村さん。約4年間の活動を経て、地域と学校を結ぶ新たな取組に挑戦したいと転職を決意しました。

人口減少が進み、地元就職率が低下する本市では、プログラミングなど最先端の技術を学べる場、まちの良さを知ってもらう魅力ある教育の実現が目標。「カタリバ」の経験を生かし、9月からは市内で活躍する人や大学生を交えて中高生とふれあうイベントを開催する予定です。

「生徒の思いを引き出して、夢を全力で応援し、可能性を伸ばしていきたい」と意気込む野村さんの挑戦が始まります。



▲大学生に「カタリバ」の活動を紹介する野村さん

旬な人

香月泰男美術館で展覧会を開催中

「シベリヤ・シリーズ」が里帰り

7月28日(金)から、香月泰男美術館では展覧会「香月泰男 平和の形・シベリヤの記憶と愛した日常」が開催されています。

本展覧会では、現在、山口県立美術館に所蔵されている香月の代表作「シベリヤ・シリーズ」全57点のうち、「雲」「朝陽」「鷹」「渚ヘナホトカ」「絵具箱」の5点を、3年ぶりに香月泰男美術館で公開。

また、満州(現在の中国東北部)のハイラル駐屯期に、家族へ送った軍事郵便「ハイラル通信」が里帰ります。



▲「シベリヤ・シリーズ」5点が里帰り



▲戦地から家族へあてた「ハイラル通信」